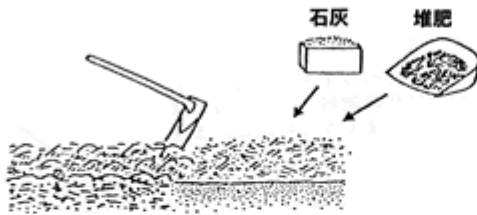


エンドウの栽培方法

丈夫で作りやすく、家庭菜園にもうってつけの作物。ただし、連作すると発芽が悪くなったり、株元や根が褐変し、生育不良や枯死などの障害が出やすい。同じ畑や土(プランター)には3~4年作付けしないようにする。また酸性に弱いので石灰を施用する。日当たりの悪いところでは、実のつきが悪くなるので注意する。

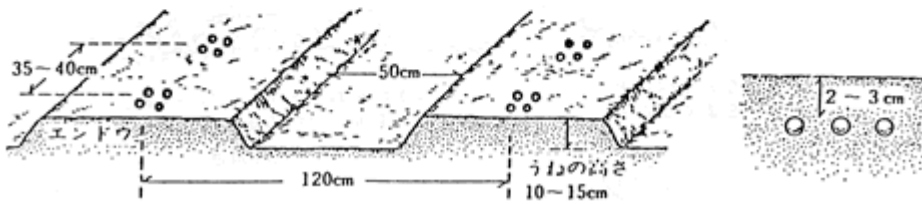
A 畑での栽培

①畑の準備



石灰は早めにまいて15cm位に耕しておく
 元肥として1アール(100㎡)当たり
 堆肥 100kg
 化成肥料 5kg
 ようりん 3~4kg

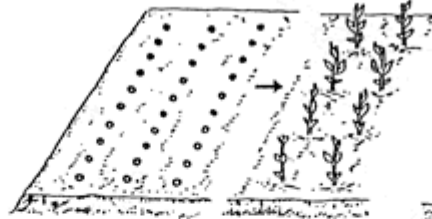
①種まき



②間引き



丈が7~8cmくらいのころ
 混み合ったところを間引いて
 2本立てとする



畑の都合によっては、別の場所で
 苗を育てておき、定植してもよい

20日ぐらいたち、
 苗が10cm内外に
 伸びたら畑に1本ず
 つ植え付ける

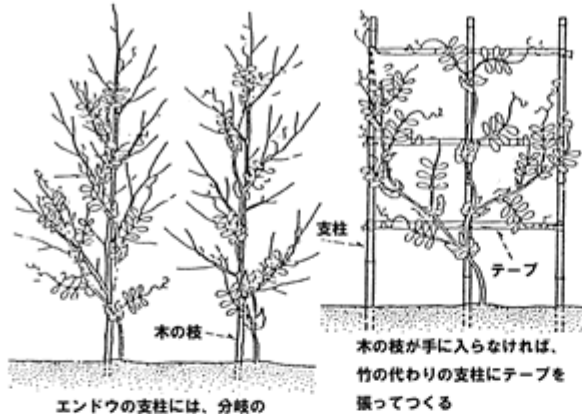


③追肥



追肥は越冬後の3月上~中旬頃
 うねの肩のところにやり、通路の
 土を上げてうねを整形する
 量(1アール当たり)化成肥料 5~6kg

④支柱立て



エンドウの支柱には、分岐の多い木の枝や竹などが好適

木の枝が手に入らなければ、竹の代わりの支柱にテープを張ってつくる

⑤収穫



さやのなかの実が外部からほんのわずかわかるようになったところが収穫適期

さやが硬くならないうち、普通2~3日おきに収穫する。実どり用はさやにしわが現れはじめるころが適期

B プランターなどでの栽培

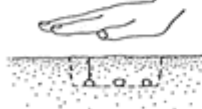
①タネまき



容器栽培では株間15~20cmに3~4粒ずつ種をまく

酸性土をきらうので石灰で中和し有機物を十分に混ぜ排水をよくする

タネまき後2~3cm覆土して軽く押さえ、たっぷり灌水する



②防寒

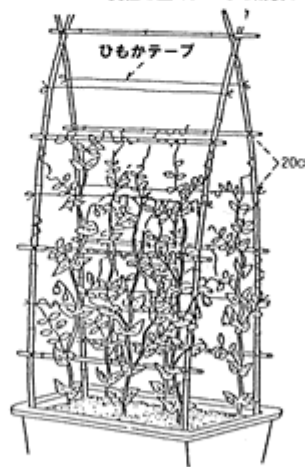
耐寒力のつく本葉2~3枚で越冬させるとよい



株元をビートモスやもみからなどで覆い、北風を避けた所に置く

③支柱立て

春になったら高さ2mくらいの支柱を立て、つるを誘引する



間引き・収穫などは畑栽培に準ずる

○病害虫の防除

あまり致命的なものはないが、うどん病やハモグリバエが発生することがある

ウドンコ病はトップジンM水和剤 1500~2000倍液

ハモグリバエはスミチオン 2000倍液

またはバイジット 1000倍液を散布する